

写真俳句を作ろう

－創作・添削を通して思いを伝える工夫を考える－

- 1 科目名 現代文B
- 2 単元名 詩歌
- 3 教材名 俳句
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

ア 身の回りの事物や自然に目を向け、感じたことを進んで表現しようとする。
(関心・意欲・態度)

イ 俳句の創作、他者作品の添削を通して、自分の思いを的確に伝えるために必要なことは何かを考えることができる。(書く能力)

ウ 俳句の形式、修辞法とその効果について理解できる。(知識・理解)

②単元の目標設定の理由

- ・何事にもスピードと効率性が求められる現代、人々のコミュニケーションにも変化が生じている。特に高校生にとってはSNSなどを利用したコミュニケーションが主流になりつつある。SNS上のコミュニケーションではやりとりのスピードが重視されており、日常生活においても深く考えた上で言葉を発することが少なくなっているのではないかと感じている。そのため、俳句を取り上げることで、短い表現であるからこそ思いを伝えるために言葉をじっくりと考えて選ぶ必要があるということを実感させたいと考えた。更に、他の生徒が創作した句を鑑賞・添削することで、他者が自分の言葉をどう受け止めているかを確認させるとともに、自分だけでは気付けない他視点からの学びができると考えた。うまい俳句を作ることがこの単元の最終目標ではない。自分自身で言葉を吟味すること、そしてその知恵をグループで持ち寄り、共有することでよりよい表現について考えることを大きな目標としてこの単元を設定した。自分の思いを伝えるために必要なことや言葉の持つ力に気付かせ、伝え合う力の育成を図りたい。
- ・俳句の五七五のリズムは身近であり、比較的創作も簡単である。自由に想像する楽しさと伝える喜びを体験できる授業を目指したい。

③中心となる学習活動

- ・まずは教科書等を使用し、俳人の名句の鑑賞を通して俳句独特の表現の特色や様々な修辞法を学び、表現の工夫について考えを深める。
- ・俳句の創作では、「写真俳句」を取り上げる。写真を見て俳句を各自で創作し、その後グループで発表する。その後グループ内の他の生徒の句を鑑賞・添削し、再度交流する。
- ・年度末に自分で撮った写真を使って一年間(高校生活)を振り返る写真俳句を創作し、句会を実施する。

④言語活動の工夫

- ・「何でもいいから作ってみよう」ではどうしてもよいか分からず戸惑う生徒も多い。写真という視覚的素材を準備することで「何を俳句にすればよいか分からない」という問題を解決することができる考えた。
- ・いきなり「個人で創作せよ」と指示を出すと全く取り組めない生徒も少なからずいる。そのため、写真を見てどのようなフレーズが思い浮かぶか、どのように言葉を組み合わせると感動が効果的に表現できるかをまずグループで考え、共有し、自分の句に活かせるよう、ワークシートを用いて順をおって授業を展開することとした。
- ・俳句を創作し、発表して終わるのではなく、他の生徒の句を鑑賞し、添削するという活動を取り入れた。互いの句について鑑賞文を書き交流することで、他者が自分の句をどのように受け止め、感じたかを知り、俳句に込めた自分の思いがどのように伝わったかを確認することができる。また、他の生徒の句を添削することでよりよい表現について深く考えるとともに、添削結果を交流することにより、自分で推敲するだけでは得られない視点を学び、自己の表現の工夫につながれると考えた。

⑤評価			
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	① 俳句に描かれた心情、情景などを表現に即して読み味わおうとしている。 ② 進んで表現しようとしている。	発言 観察（机間指導） 自己評価シートの点検	・句に使われた表現からどのようなことをイメージできるかを尋ねる。 ・グループの意見交換で他の生徒の意見も参考にしよう助言する。
書く能力	① 五音と七音の言葉を組み合わせることで俳句を創作している。 ② 他者の作品を鑑賞し、添削をしている。 ③ 創作・添削の活動を通して的確に思いを伝える工夫について考えることができる。	観察（机間指導） ワークシートの点検	・写真を見て何を感じるかを尋ね、そこから連想できる言葉を組み合わせるよう助言する。 ・グループ内で意見交換をして、他の生徒のコメントを参考にしよう助言する。
知識・理解	① 俳句の形式、語句の意味や修辞法を理解し、語彙を豊かにしている。	観察（机間指導） 発言 確認テスト	・参考プリントを見たり、辞書を引いたりするよう助言する。
成果と課題	<p>①生徒はこちらが予想していた以上に真面目に前向きに取り組んでくれた。最後の感想でも、難しかったけれどその分おもしろかったという意見が多かった。十七音という短い中で感情や情景を表現しなければならず、一音も無駄にできないと必死に言葉を探す様子が伺えた。言葉にこだわり、慎重に選ぶことの難しさ、楽しさを実感できたという意味では目標はある程度達成できたのではないか。</p> <p>②初めは言葉が浮かばずなかなか俳句を作れない生徒もいたが、スモールステップを準備し、グループで交流しながら進めることで、最終的には俳句を作ることができない生徒は一人もいなかった。教科書等を用いて俳句についての技法や基礎的な知識をしっかりと理解させたうえで、それを自分の創作に活かせるようにもう少し授業時間を確保できるとよいかもかもしれない。</p> <p>③やはり俳句の添削は難しい取組であったので、添削の仕方について具体的に例を挙げて全体に説明する時間を設けるとよかった。</p> <p>《生徒の感想より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真から出てくるイメージを言葉にするのは難しくもあるけれど、うまく言葉にできたときの喜びがあった。 ・自分が何かを思って俳句を創作しても、一人一人感じ取ることが違ったので、その違いを知るのが楽しかった。 ・他の人に自分の俳句を添削してもらおうと、そういう考え方もあるのかと学んだり、その言葉があったかと感心したり、学ぶことがたくさんあって楽しかった。 ・グループで俳句を考えることにより、自分には想像もつかない情景や言葉が次々と出てくるのでおもしろいなと思った。 ・添削の際に「自分だったら」と考えることでまたそこから俳句に広がりを持たせることができた。また、自分では思いつかない発想に非常に刺激を受けた。 		
アドバイス及び留意点	<p>グループでの活動が中心となるので、話し合いを活発にし、作業を円滑に進められるように考慮してグループ編成をしておく必要がある。また、今回は写真をカラーコピーしたものをグループの数だけ準備し、生徒が近いところでじっくりと見られるようにした。最初に実施したときはグループに配布する写真に季語を数個記入しておいたが、書かれた季語に引っ張られてしまい、その季語を説明するような俳句が多くなってしまった。写真だけの状態の方がイメージを膨らませやすいと感じたので、配布した季語のプリント（ミニ歳時記）を参考にして各自の判断で自分のイメージに合った季語を選ばせるほうがよいと思われる。</p>		
小中学校との系統性	<p>中学・2年・書くこと 「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」 「オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。」 上記の事項については、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。 「ア 表現の仕方を工夫して、詩歌を作ったり物語を書いたりすること。」とある。</p>		

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	<p>○俳句に対する興味や関心を持つ。</p> <p>○俳句を鑑賞し、描かれた情景や心情を理解する。</p>	<p>・俳句について知っていることをグループで交流する。【言ア】</p> <p>・俳句の形式や表現の特色を確認する。【指オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な意見交流を促す。 ・小型のホワイトボードを準備するとよい。 <p>・いくつかの俳句を鑑賞し、描かれた情景や心情を理解する。【指イ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句の形式や修辞法などから、授業で扱う俳句を選択しておく。 	<p>積極的に話し合いに参加している。【関】</p> <p>俳句の形式を理解している。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 発言</p> <p>自分なりに句意を考えることができる。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 発言</p>	<p>まずは言葉そのものの意味を確認させ、そこからどのような情景・心情がイメージできるかを尋ねる。</p> <p>↓</p> <p>グループでの交流までに書き上げられるように個別に指導する。</p>
2	<p>○俳句を鑑賞し、描かれた情景や心情を理解する。</p> <p>○効果的な表現方法を考える。</p>	<p>・自分なりに考えた句意をグループで交流することで描かれた情景や心情の理解を深める。【指イ、言ア】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な意見交流を促す。 ・十七音という短い言葉であるが故に様々な解釈ができるということを確認する。 ・他の生徒の意見を非難することのないように注意する。 <p>・情景や心情を効果的に表現するために作者がどのような工夫をしているか考える。【指オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な修辞法や助詞の働きなどについて解説する。（補足プリント、国語便覧等を準備する） 	<p>自分なりに考えた句意をグループで発表し、交流できる。【話・聞】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 発言</p> <p>俳句では一語の持つ役割が大きいこと、様々な修辞法が使われていることを理解している。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） 発言</p>	<p>他の生徒の意見をメモするように助言する。</p>
3	<p>○写真俳句の作り方を理解する。</p> <p>○五音と七音の言葉を考える。</p>	<p>・解説を聞き、俳句の作り方を理解する。【指オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を挙げて俳句創作の手順を説明する。 <p>・写真を見て五音と七音の言葉を連想し、プリントに記入する。</p> <p>・グループに分かれて各自が考えた言葉を共有し、プリントにまとめる。【言ウ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を準備しておく。 ・最後にワークシートを回収する。 	<p>俳句の形式や修辞法を理解している。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p> <p>五音と七音の言葉を連想し、ワークシートに記入している。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p>	<p>写真に写し出されているものをまずはそのまま言葉にしてみるよう助言する。</p> <p>↓</p> <p>次時の俳句の創作のために、グループの他の生徒の考えた言葉をメモさせる。</p>
	<p>○写真俳句を創作する。</p>	<p>・前時にグループで共有した五音と七音の言葉を組み合わせて写真俳句を創作する。【言ウ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによっては考えた言葉が少ないことも考えられるので、クラス分をまとめたプリントを準備してもよい。 	<p>自分で俳句を創作している。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p>	<p>前時に出了た言葉をいろいろなパターンで組み合わせてみるよう促す。</p> <p>他の生徒の添削例を参考にしよう助言する。</p>

4	○他の生徒の句を鑑賞・添削する。	<ul style="list-style-type: none"> ・創作した俳句の句意をできるだけ詳しく書くように指示する。 ・グループに分かれて各自の句を発表し、他の生徒の句を鑑賞・添削する。【指オ・言ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の句を非難することのないように注意する。 ・他の生徒の句をグループのメンバーそれぞれで添削するよう指示する。 ・最後にワークシートを回収する。 	<p>他の生徒の俳句について鑑賞・添削を記入している。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p>	<p>↓</p> <p>交流の様子を観察し、ワークシートの記述を点検して個別に指導する。</p>
5 本時	○写真俳句の創作・添削を通して自分の思いを的確に伝えるために必要なことは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の写真の中から一つを選択し、写真俳句を創作する。【言ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の写真を準備しておく。 ・季語プリント（ミニ歳時記）を参考にするよう助言する。 ・グループに分かれて各自の句を発表し、他の生徒の句を鑑賞・添削する。【指オ・言ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の句を非難することのないように注意する。 ・ワークシートを交換して他の生徒のプリントに直接記入するよう指示する。 ・作者の句意を読む前に鑑賞文を書くように指示する。 ・自分ならどのように表現するか、そうすればよりよい表現ができるかを考えて添削するよう促す。 ・自分の句を振り返り、思いを的確に伝えるために必要なことは何かを考え、自己評価と感想を記入する。【指オ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・最後にワークシートと自己評価シートを回収する。 	<p>自分で俳句を創作している。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p> <p>他の生徒の俳句について鑑賞・添削を記入している。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p> <p>自己評価シートにコメントを記入している。【書】</p> <p>↓</p> <p>自己評価シートの点検</p>	<p>写真に写し出されているものをまずはそのまま言葉にしてみるよう助言する。</p> <p>添削する際には、気になる言葉を見つけ、その反対の言葉、似た言葉、つながりのある言葉を考えてみるよう助言する。</p> <p>↓</p> <p>交流の様子を観察し、ワークシートの記述を点検して個別に指導する。</p>
6	○写真俳句の発表会を行い、表現する楽しさや伝え合う喜びを実感する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が撮った写真で写真俳句を創作し、句会を行う。【言ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・色画用紙に写真を貼り俳句を記入したものを事前に回収する。筆跡で作者が特定されないように鉛筆書きの状態での回収し、清書を教員が行ってもよい。 ・句会の手順を説明する。 ・最後にワークシートを回収する。 ・投票結果を集計し、後日配布する。 ・最後の句会のみ年度末に実施してもよい。 	<p>自分で俳句を創作している。【書】</p> <p>他の生徒の俳句を鑑賞し、感想を記入している。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導） ワークシートの点検</p>	<p>選んだ俳句の中で特に気に入っている言葉はないか、どのような情景・心情がイメージできるかを尋ねる。</p>

6 第5時の学習指導案

本時の位置	5 時間目（全6時間）		
本時の学習目標	<p>ア 感動、感想を進んで表現しようとしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>イ 写真俳句を創作し、他者作品を添削するという活動を通して、思いを伝える工夫について考え、自己の表現に役立てることができる。（書く能力）</p>		
事前の準備	<p>① 写真を準備しておく。</p> <p>② グループ学習の隊形に机を動かしておく。</p>		
学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価	

<p>導入 5分</p>	<p>□本時の目標の確認</p>	<p>① 本時の目標を理解し、写真俳句の創作、鑑賞・添削の流れを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に提出したワークシートを返却する。 ・本時の目標を板書する。
<p>展開 40分</p>	<p>□写真俳句の創作</p> <p>□互いの作品の鑑賞・添削</p> <p>□本時の学習の振り返り</p>	<p>② 複数の写真の中から一つを選び、俳句を作る。</p> <p>③ 句意もワークシートに記入する。</p> <p>④ グループになってプリントを交換し、鑑賞文と添削を記入する。</p> <p>⑤ 思いを伝えるために必要なことは何かを考え、自己評価シートに感想とともに記入する。</p> <p>⑥ グループで表現の工夫について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真はグループで統一する必要はなく、各自で自由に選択するように指示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標 ア に対する評価規準と評価方法 [規準] 俳句を作ることができる。 [方法] 記述の観察 [状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までのプリントを確認させる。 ・写真に写し出されたものをまずはそのまま五音、七音の言葉で表現し、それを組み合わせて俳句を作ってみよう助言する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中でプリントを回して直接書き込むよう指示する。 ・作者の書いた句意に目を通す前に、俳句をどのように解釈したかを記入させる。 ・作者の書いた句意と受け手の捉え方が異なる場合は、どのようにすれば作者の思いが伝わるかを考えて添削するよう促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標 イ に対する評価規準と評価方法 [規準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の俳句の句意を考え、表現の仕方を評価・添削できる。 ・思いを伝えるために必要なことは何かを考えてワークシートに記入できる。 <p>[方法] 記述の観察、ワークシート、自己評価シートの点検 [状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句に使われた中で気になる言葉を見つけ、その反対の言葉、似た言葉、つながりのある言葉を考えてみるよう助言する。 ・グループ内で意見交換をして、他の生徒のコメントを参考にするよう助言する。 </div>
<p>まとめ 5分</p>	<p>□本時のまとめ</p>	<p>⑦ 自分の伝えたいことを的確に表現するためには、言葉を慎重に選ぶことや相手の思いを想像することが必要であると理解する。</p> <p>⑧ ワークシート、自己評価シートを提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に、自分で撮影した写真を使って俳句を作り、句会を行うことを伝えておく。 ・ワークシート、自己評価シートを回収する。